

史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会（第24期・第5回）  
議事要旨

日時 2020年7月18日

開催形式：オンライン形式

出席者：久留島典子（委員長）、井野瀬久美恵、長志珠絵、大日方純夫、川島 真、君島和彦、木村茂光、久保亨、栗田禎子、近藤孝弘、坂井俊樹、佐野正博、高橋裕子、中村元哉、姫岡とし子、星乃治彦、水羽信男、三谷博、桃木至朗、柳原敏昭、若尾政希

議題：記録案の内容の検討

審議内容：前回会合を受けてワーキンググループによって作成された、分科会としての「記録」（仮題「教科書をめぐる制度のあり方について」）の文案の検討、意見交換を行なった。

議論された点および審議結果：

◎「記録」の性格について議論・確認した。議論の結果、

①単なる「活動報告」ではなく、次期での「提言」につなげていけるような一定の方向性を示す文書として位置づけること、②文案作成に携わったワーキンググループ等、一部のメンバーの見解としてではなく、分科会全体の見解を示すものとして提出すべきであることが合意・確認された。

◎これを前提として、WG作成の「記録」（案）に関して意見交換を行ない、修正・改善の余地がある点について話し合った。

議論を受けて、今後文案の加筆・修正を進め、提出に向けて準備することが合意された。また、Ⅲの部分はまだ具体性に乏しく、COVID-19で学校教育を取り巻く状況が激変し、教科書の電子化も急速に進むと予想される中で、さらにいろいろな問題を考える必要があることが指摘された。

以上

（議事要旨文責：栗田禎子）